

高知県の豪雨頻度分布の地域特性

1170243 樋口 義仁

Local characteristics of the heavy rainfall frequencies
in Kochi prefecture

Higuchi Yoshihito

近年の温暖化や将来予測の地域気候への影響評価に資するため、高知県の各地域の代表的な8地点における長期間の豪雨頻度や変動特性を解析した。気象庁の気象官署(高知市)のデータと地域気象観測所(アメダス)(室戸岬、魚梁瀬、後免、江川崎、窪川、本川、本山)データを用い、一度に降る雨量として日界の影響を受けない2日雨量で評価し、その100mm以上を豪雨としてその頻度を調べた。ほとんどの地点で頻度分布は雨量の少ないか方からある範囲までは近似的に連続減少関数で記述できるが、極端に大きな雨量は頻度が非常に小さくかつ離散的であることわかった。さらに、窪川、本川、魚梁瀬の年平均降水量が多い3地点では、年ごとの豪雨頻度の年々変動が非常に大きく、中でも1999年においては前後の年に比べ豪雨頻度が特に高かった。この1999年付近では強いエルニーニョ現象が起き、ほかに1991~1992年、2002~2003年のエルニーニョ現象が起きたとき付近でも豪雨頻度が高くなっていた。反対に、豪雨頻度が低い1984~1985年、1995~1996年、2007~2008年付近においてはラニーニャ現象が起きている。これらのことは、年平均降水量が多い地点において、エルニーニョ現象、ラニーニャ現象は豪雨頻度に有意な影響を与えていることを示唆している。